

沙流川
流域委員会
ニュースレター
第2号

第2回 沙流川流域委員会が 平成17年12月27日に開催されました

日 時：平成17年12月27日(火) 14:00～15:40 場 所：ふれあいセンターびらとり

第2回流域委員会では、河川整備計画の目標流量を平成15年台風10号洪水に変更し、引き続き二風谷ダム、平取ダム及び河道掘削により対応することが妥当との意見が出されました。

また、河川整備計画の実施にあたっては、地域の意見を踏まえ、アイヌ文化の継承や河川環境の保全に努めることとの意見も頂きました。

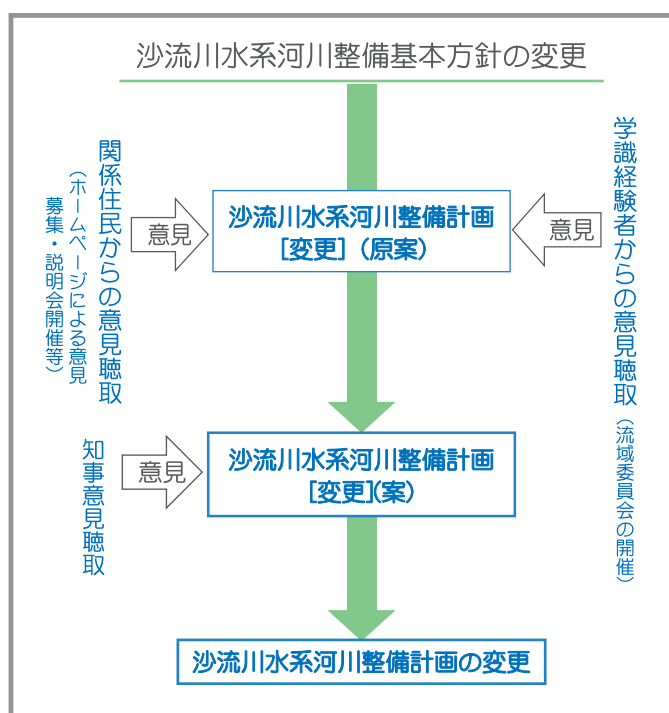
2回の流域委員会を経て、河川整備計画[変更]（原案）についての学識者からの意見聴取を終了しました。

今後は、関係住民意見を踏まえ、河川整備計画[変更]（案）を作成します。



【主な議事内容】

- 1 前回委員会の議事要旨について
- 2 沙流川水系河川整備計画の変更について



●「沙流川流域委員会」委員名簿

	長南 史男	北海道大学教授(農業経済学)
●	梶川 博	ひだか漁業協同組合副組合長理事
●	川奈野 恕七	北海道ウタリ協会平取支部長
●	黒木 幹男	北海道大学大学院工学研究科助教授
●	郡司 啓	門別町長
●	阪元 兵三	北海道林業協会顧問
●	辻井 達一	(財)北海道環境財団 理事長
●	◎ 藤間 聡	室蘭工業大学教授(河川工学)
●	中道 善光	平取町長
●	西尾 正	日高町長
●	松原 俊幸	沙流川サケ・マス文化研究会会長
●	眞山 紘	(社)北海道栽培漁業振興公社技術顧問
●	渡辺 研一	平取町商工会工業部会幹事

● 議事要旨

1. 第1回審議内容の確認

第1回沙流川流域委員会議事要旨(案)を承認。

2. 沙流川水系河川整備計画の変更について

- ・事務局より、「沙流川水系河川整備計画の変更概要」及び「沙流川水系河川整備計画の現行と【変更】(原案)対比表」について説明。
- ・委員の主な意見は以下のとおり。

(1) 主な意見

(治水対策)

- ・平取町の問題は、平成15年台風10号で貫気別と額平の農地がもっとも被害を受けたことであり、被害が起らないように整備して欲しい。このため、今回の整備計画変更は早期実現を希望する。
- ・この流域委員会は、平成15年台風10号が再来しても安全なように流量を6100 m³/sに変更することが目的であり、最も重要なことである。その後、治水の実施にあたって、如何に自然に近い形を維持するかを議論すべきである。

(ダム)

- ・ダムに堆積した土砂は、沙流川を汚濁させないよう排除するべき。例えば、その土砂を用いてシシャモの産卵床を整備するなどの対策も必要である。治水対策を効果的に実施するため、地域住民のため、弾力的にダムの運用を行って欲しい。

(河道掘削)

- ・河道掘削で高水敷を拡大することにより、融雪出水期の水が引くときにサケ・マスの稚魚がここに取残される可能性がある。自然に形成された河道では、滞筋ができたりするが、人工的に掘削した場合には、逃げ道が形成されないことも考えられるため、今後、この点にも留意するとともに、モニタリングを進めて欲しい。
- ・前回事務局より河道掘削にあたっては、アダプティブマネージメントにより取り組むとの説明があったが、工事期だけでなく、モニタリングを行い、将来にわたってサケ、サクラマス、シシャモ等の住みよい河川にしていく必要があるとの指摘と理解。
- ・シシャモへの配慮を考えると、河道を掘削することによって、洪水により蛇行すると思うが、すぐ護岸を設けるのではなく、堤防に接近した箇所の護岸を強化するなど、自然な川になるように努力してもらいたい。また、平取ダムには魚道を付けることと渇水期にはいくらかでも放流するようお願いしたい。
- ・河道掘削について、手戻りを許容するアダプティブマネージメントについてモニタリングの組織をつくるなど、実効性のあるものにできるように関係の方々をお願いしたい。
- ・まっすぐ流れるよりは、蛇行したり、魚の隠れる場所などがあつたほうが良いのではないかと。今までは、直線河道の計画が主体であったが、それは魚の生態系が変わる要因ともなる。平成15年台風10号以降、生物が回復してきた。できるだけ、あまり深く掘り下げるのではなく、自然の形で淘汰できれば良いのではないかと。
- ・自然河道の複列砂州は洪水の時川がどう動くか予測が難しい。堤防を守るためには、防御ラインを確保することが前提であり、自由ということにはならない。
- ・魚属資源の生態上、今の沙流川がベストか?河道形状を変更すると、生態系にとってもっとよくなる可能性があるのではないかと。基本設計と実施設計のようなものがあるなら、基本設計の段階で専門家のご意見を織り込むなど、しっかり担保を持ち合わせながらやっていくのが良い。

(アイヌ文化)

- ・大切なのは、人が住んでいるということ。安全の優先が、前提。それを踏まえ、河川は固有の顔を持っている。安全のみを追求すると全て同じ河川になる。沙流川の特徴を活かすべきである。そのひとつとしてアイヌ文化の伝承を考えるべき。
- ・文化は自然を残すだけでなく、自然から文化が生まれることもある。

そのようなことは、アイヌ文化の中にも存在するので、こういう文化を組み込んだ川づくりというのが考えられても良い。

アイヌ文化の伝承に必要な自然環境の保全について、平取ダム建設にあたって取りまとめているアイヌ文化保全対策調査検討委員会の報告書を作成中で、このような考え方でやってもらうのがいいのではないかと提案になると思う。

(流域の視点)

- ・上流側では、山腹が崩れたままのところがある。全体的には相当量の流木予備軍が存在する。徐々に撤去は行っているのかもしれませんが、山肌もそのまま手付かずになる懸念がある。山のことも土現とのことも連携して話を進めるといった話がありましたが、流木が出ないように除去などそういう方向に話を進めて欲しい。
- ・国、市町村、個人など、山の所有者が横断的に連携して山の整備を行っていく必要がある。
- ・洪水を抑えていける環境を作っていく中で森林の役割は大きいですが、崩壊地がまだ手つかずな状態で存在する。計画的に森林・治山・治水について整備をしていただきたい。そうすることで日本一の清流沙流川を有効に利用していき期待している。
- ・治山事業は予算が少なく、現時点では大きな雨が降れば流木が出ることは避けられないのではないかと。流木を捕捉するようなスリットダムのようなものを設置するなど、関係機関等が集まる協議会で検討していただければと思う。
- ・流域の地質は浅い表土の下に樽前や有珠の火山灰があり、木が直立したまま斜面がずれることが多々ある。災害履歴が本州と比べ少ないことから、豪雨で大きな被害が発生する。これを管理する事は困難だと思うが、どこかで手だてをしなければならぬ。

(河川環境)

- ・色々な河川でもサケの産卵場所を保全しながら河川を整備していると聞いている。沙流川における河川整備にあたっては、サケの自然産卵の場を提供していただければありがたい。
- ・沙流川は昔から荒れる河川である。一方では隙を置いていたりするので、多様な河相を示している。洪水によって川がある意味で更新するような条件があった方が豊かな多様性が生まれる。安全性を保ちながら、生物の多様性を考えることがベスト。
- ・森林や植生についても攪乱により多様化する。川から巨石を採って人が売ること例もあり、人間が川を荒らしているという面もあるのではないかと。
- ・生物学的あるいは生態学的な意味において安全かつ多様性のある河川を目指すということがベースにあっても良いのではないかと。
- ・特に下流部については昔の沙流川の姿を河道を掘削する時に目標にすれば、多分できると思う。基本の骨格だけ作って置いて、あとは洪水を待って戻していくやり方かと思う。
- ・淡水魚が棲む場所や種(たね)になるものを失わせないことが大事。大きな出水のときは小さな流れに逃げ込んだりするので、支川も含めて考えていかないと。うまくいかないと。

(関係機関との連携)

- ・流域全体を対象とし、河川管理者は自治体、森林管理者、農林漁業団体、地域住民等と連携して整備を進めていく必要がある。

(流域委員会)

- ・この流域委員会というのは、平成15年8月規模の洪水を再び起こさないようにということで始まったものなので、目標はそこに集中されるが、現在は単に整備だけでなく、河川環境等に配慮していかなければならない時代である。治水対策については、前回委員会から議論を積み重ねられた結果から、台風10号出水に対応するための変更点については、ご理解頂けたと認識し、今回は治水、自然環境、文化など多様な面からの議論を頂いた。
- ・沙流川水系河川整備計画変更についての原案は、委員の皆様にご了承されたと考える。委員会での意見は整備計画の策定にあたって反映して頂くとともに、今後の河川整備を実施される際にも、活用されるものとする。

沙流川流域委員会事務局

あしたを創る北の知恵
北海道開発局



北海道開発局 室蘭開発建設部 治水課

〒051-8524 室蘭市入江町1番地14 TEL0143-22-9171 FAX0143-22-9170
URL <http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/>